

パーキンソン病の方に対する 集中リハビリテーション入院 のご案内

- リーシルバーマン療法；LSVT[®]

- 運動機能に対する LSVT[®]BIG (ビッグ)
- 音声機能に対する LSVT[®]LOUD (ラウド)

- 短期集中リハビリテーション；15日間

福井総合病院

リハビリテーション課



(2021年6月作成)

パーキンソン病の方に対する 集中リハビリテーション

パーキンソン病はゆっくり進行していく（緩徐進行性の）病気といわれ、その症状は様々です。

適切な薬物治療と、病気の進行度合いにあわせたリハビリテーションを組み合わせることで、機能維持や二次障害の予防が図られ、自立して生活できる時間の延長や、介助量の軽減、生活の質（QOL）の維持・向上が期待できます。

当院では、パーキンソン病の方に対し、近年注目されているリーシルバーマン療法（以下、LSVT®）を、入院集中リハビリテーションとして実施しています。

LSVT®に適応がない方に対しては、15日間の入院期間で「短期集中リハビリテーション」を実施しています。

また、心身機能の状態や自主トレーニング状況を確認するための定期的な心身機能検査を行う2泊3日の入院をおすすめすることもあります。

リーシルバーマン療法とは？

リーシルバーマン療法（LSVT®）とは、1986年にアメリカで開発された、パーキンソン病の方に対する、4週間の短期集中型リハビリテーションプログラムです。

音声機能に対する LSVT® LOUD（ラウド）と、運動機能に対する LSVT® BIG（ビッグ）があります。（LSVT® LOUDは言語聴覚士によって実施され、LSVT® BIGは理学療法士または作業療法士によって実施されます。）

2019年時点で、世界70ヶ国以上で実施されており、近年日本でも普及してきています。

このプログラムは、LSVT® Global が開催する講習会で認定を受けたスタッフでなければ提供できないというルールがあります。

福井総合病院では、認定を受けたスタッフが数名在籍しており、リーシルバーマン療法を提供しています。

LSVT[®]LOUDとは？

パーキンソン病による運動症状に「声が小さくなる」という症状がよくみられます。ご本人が自覚されていない感覚と運動のズレが原因のひとつとされています。

LSVT[®]LOUD は、大きな声を出す練習をしながら、このズレの修正を図り、日常会話で「習慣的に」適切な大きさの声を出せるようにする集中的なプログラムです。

退院後、患者様が自己管理・自主トレーニングができることを目指していけるような工夫がされており、終了後も効果を維持できるとされています。

近年、声が大きくなる効果だけでなく、食べる・飲み込む機能の改善も報告されています。

写真）LSVT[®]LOUD 中の様子



＊ LOUDの為の入院中、必要性に応じて、運動機能に対する理学療法または作業療法を20～40分程度提供することが可能な場合があります。

LSVT[®]BIGとは？

パーキンソン病による運動症状のひとつに、動作が小さく、ゆっくりになることがあります。例えば、歩く歩幅が小さくなる、服を着るのにとても時間がかかる、等です。

周囲の人から見て動きが小さくなっていても、ご本人はそれをご自覚されていないことがあります。これは患者様ご自身の感覚と運動にズレがある状態です。

LSVT[®]BIG は、このズレを修正しながら、大きな運動や動作を繰り返し、身体機能向上や動作や歩行の改善をはかる集中的なプログラムです。終了後も、患者様が自己管理・自主トレーニングを行い、効果を維持していくための工夫がされています。

写真) LSVT[®]BIG 中の運動



＊ BIGの為の入院中、必要性に応じて、嚥下機能（食べる・飲み込む機能）に対して、言語聴覚士による摂食機能療法を30分程度提供可能な場合があります。

当院でLSVT[®]を受けいただく為の 適応基準

当院でLSVT[®]をお受けいただく為には、
以下の条件を満たしている必要があります。

- 症状が安定している
(服薬コントロールが安定している)
- うつ症状がない
- 声掛けのもと、動作の大きさに変化が生じる
- このプログラムにより状態改善がみこめる
- 最低30日間、福井総合病院に入院が可能である
- プログラムで定められた毎日1～2回の自主トレーニングが行える(ご家族等の協力も可)
- ご本人に意欲がある(負荷が強めの運動であり、毎日の自主トレーニングは必須です)

- * 上記を満たしてもお受けできない場合もあります。
- * 上記を満たしておられない方には15日間の短期集中リハビリテーションをおすすめする場合があります。
- * 指定難病医療受給証がない方も対象です。

短期集中リハビリテーションとは？

福井総合病院に 15 日間入院していただき、LSVT[®] に適応しない方を対象として実施する集中リハビリテーションです。

ゆっくり進行していくパーキンソン病の症状変化に対し、服薬調整、リハビリテーションに関する見直し等を行っていきます。

短期間ですので、入院されるにあたっては、患者様ご自身やご家族の方の入院目的（例えば「●●を改善したい」「自主トレーニング方法を知りたい」等）を明確にさせていただく必要があります。

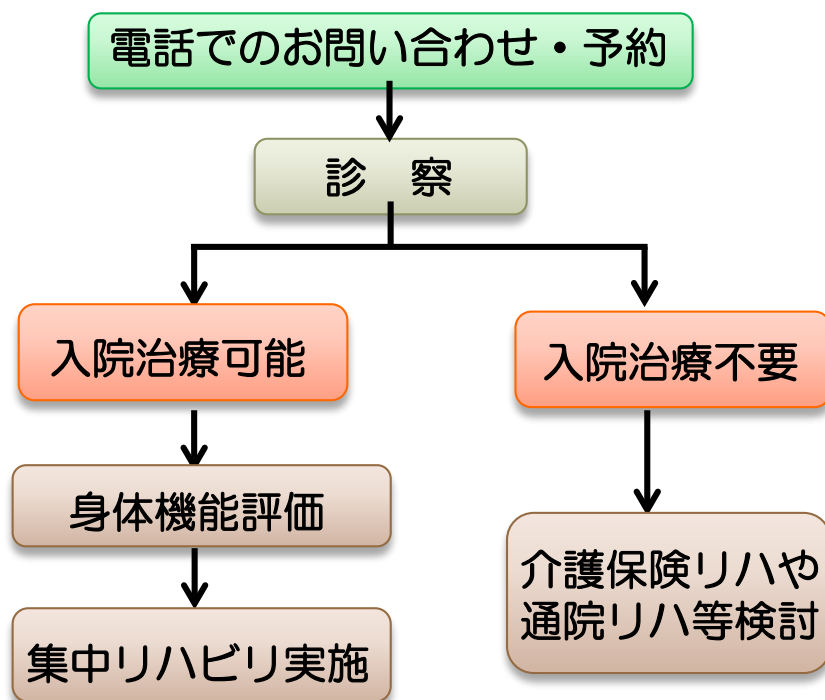
入院後、服薬調整、理学療法・作業療法・言語聴覚療法、自主トレーニングの指導・確認、退院後のためのサービス調整など、おひとりおひとりの状態にあわせた内容を実施していきます。（入院される目的や、その方の心身機能、環境、に応じて、内容や各部署の介入比重も調整していきます。）

集中リハビリテーションを受けるまで

まず、福井総合病院 リハビリテーション課 にお電話（最終ページに連絡先記載）をいただき、福井総合クリニックの外来診察予約をとっていただきます。

医師の診察時に LSVT[®]BIG / LOUD、または短期集中リハビリテーションが可能か判断させていただきます。可能な場合は入院手続きをしていただきます。

入院初日最終日に詳細な心身機能評価をしますので、**LSVT[®]は最低 30 日間（短縮は不可）、短期集中リハビリテーションは 15 日間の入院が必要です。**



* **まず電話にてご連絡ください。**

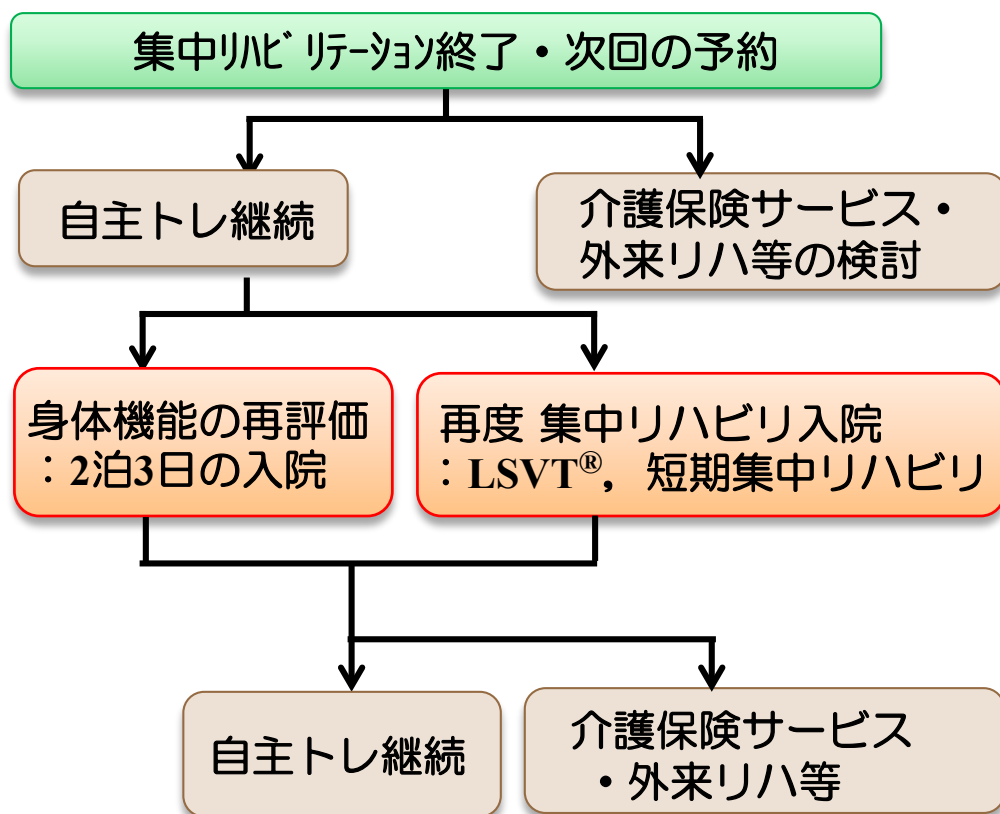
担当の者が外来受診の調整をさせていただきます。

* 入院初日・最終日は、リハビリスタッフにより心身機能評価をさせていただきます

ご退院後は？

LSVT[®]BIG / LOUD、短期集中リハビリテーション後は、ご自身で運動を継続していただくことになります。退院後に運動継続が困難な場合は、入院中に介護保険サービスの見直しや、外来リハビリテーション等をご提案させていただく場合があります。

パーキンソン病の進行状況に応じて（通常、約1年後を目安に）、再度短期入院をご検討いただくことも可能です。（詳細な心身機能評価・自主トレーニング確認・指導等のみの入院、または再度集中リハビリテーションを実施するための入院があります。）



患者様・ご家族の声

- 歩幅が大きくなった。
- バランスがよくなった。
- 体力が向上した。
- 姿勢がよくなった。
- 服を着るのがはやくなった。
- 声が大きくなった。
- これからどんな運動をしていけばよいのかを知ることができた。
- パーキンソン病についての知識も得られた。

などのお声を多数いただいております。



おわりに

当院ではパーキンソン病の方のよりよい生活や QOL 維持・向上のために、今後もより高度で先進的なリハビリテーションプログラムを提供できるよう取り組んでいきます。

集中リハビリテーションに興味をもたれた方、受けてみたいと思われる方は、是非とも下記までご相談ください。

<お問い合わせ先>



福井総合病院 リハビリテーション課

Tel **0776 - 59 - 1300** (江上町)

- LSVT®BIG、短期集中リハビリテーション：内線 5051
- LSVT®LOUD :内線 5053

